

コード No. 10027

**Anti-Human
Amyloid β (11-28) (12B2) Mouse IgG MoAb**容量 : 50 μ g

- はじめに** : アルツハイマー病は 1907 年ドイツの神経病理学者 A. Alzheimer によって最初に報告され、現在では老人性認知症の最も大きな原因となっています。アルツハイマー病の脳に多く現れる老人斑はアミロイドベータ(A β)タンパク質によって構成されています。A β は 40~43 アミノ酸からなるペプチドで、 β -および γ -セクレターゼの働きにより、前駆体タンパク質 APP (695, 751 または 770 アミノ酸からなる膜タンパク質)から切り出されてくるといわれています。
- 免疫抗原** : Human Amyloid β (11-28) 部分合成ペプチド
- 起源** : マウス \times マウス ハイブリドーマ
(X63-Ag8.653 \times BALB/c マウス脾臓細胞)
- クローン名** : 12B2
- サブクラス** : IgG₁
- 精製方法** : 抗原特異精製
- 包装形態** : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 0.5 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法** : 精製水 0.5 mL 添加 (この時溶液の濃度は 100 μ g/mL となります)
- 保存方法及び安定性** : 2~8 $^{\circ}$ C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 $^{\circ}$ C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法** : 免疫組織染色 0.25~1 μ g/mL にて使用可能
ホルマリン固定 パラフィン包埋切片の場合ギ酸処理*によって染色性が著しく向上します。
*ギ酸処理方法: 脱パラフィン後ギ酸に 5 分間浸漬した後、流水洗浄
- : ウェスタン ブロットニング 2~5 μ g/mL にて使用可能
- : 免疫沈降法 3~5 μ g/test にて使用可能
- 特異性** : ヒト Amyloid β (1-40), (1-42), (1-43) すべてと反応